

そもそもハラスメントとは、法的には継続的な望まれざる発言もしくは行動等にて相手を不快にさせ、尊厳を傷つけ、不利益や脅威を與ふといふ定義になりたり。最近においてはセクハラ、パワハラ、オワハラ等様々なハラスメント、メディアを賑ははせてあり。ハラスメントとは「嫌がらせ」とも言ふ。

一カ月ほど前にゴルフのコンペあり、ここにて、大先輩より肩をトントンと叩かれたり。振り返れば、「これつてセクハラになるの？」と聞かれたり。それがし、吹き出したれども、傍に立ちたりし後輩曰く「セクハラとは微妙なる問題にて、好いたる人にせらるればセクハラにもあらず、いかなる其の類にもあらず、一重に愛嬌と笑ふべしと言ふ。宜なるかな、いづこを境にハラスメントになるや考へさせられたり。

然は然りながら近來ハラスメントいよいよ蔓延するが如し。特に女性に對するパワハラ、セクハラは眉を顰めしむるものあり。大手企業等に勤務せる友人たち、二十五歳を過ぐるや、「壽退社」を迫らるとはしばしば聞く所なり。幸ひにしてそれがし、かかる肩叩きは経験するなかりしかども、職場にても、女性の立場、女性の觀點より見れば如何にか思ふと問はるること少なからず。女性の觀點と言へども實は個人の觀點なりて、男勝りのそれがしの觀點必ずしも女性の觀點とはならずと思ふ事多々ありき。今思ひ返せば、これもひとつのパワハラにあらずや。

セクハラは日常茶飯事なりき。飲み會に行けば「お酌」は當然のこと、先輩、同輩等よりは酔ひし勢ひにて、いまだセクハラの名はなかりしかども、其の實を味ははさるること頻りなりき。されど、そのやうなる場所にて怒るも大人げなしと思はるれば、沈黙を決め込むの外なし。時を経るにつれて、悲しいかなそのやうなる行動に出づる男性たち全員アホに見え、腹の立つこともなくなりゆく。「勝手にすべし」といふ心境に達したり。

世の中は變貌を遂げ、今日では女性上司によるハラスメントもありと聞き及ぶ。ある意味平等とは思はるれど、言葉躍り過ぎて、社會全體三辣み状態になるにあらずや。

(平成二十八年二月八日受附)